KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立クローラスプレーヤ
CHS350
CHS550

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2003/04

はじめに

共立クローラスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。

- このクローラスプレーヤをこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目 次

はじめに …… 1
警告表示ラベルの意味 …… 2
正しい作業のために …… 4
各部の名称 …… 12
輸送・移動時の注意 …… 16
使用準備 …… 16
作業を行なう …… 19
散布終了後の手入れ …… 23
点検・整備 …… 24
故障対策 …… 28
長期格納整備 …… 30
仕　様 …… 31

- 説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

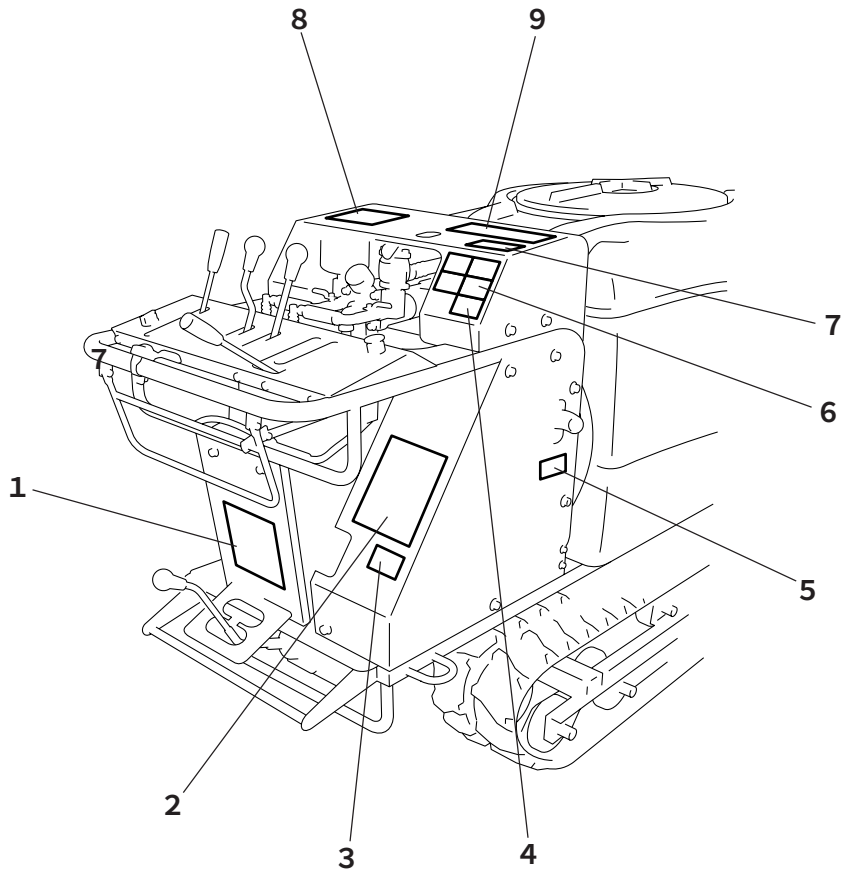
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

⚠ 注　意

- この説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- 本書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、この説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この本書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この本書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルの意味

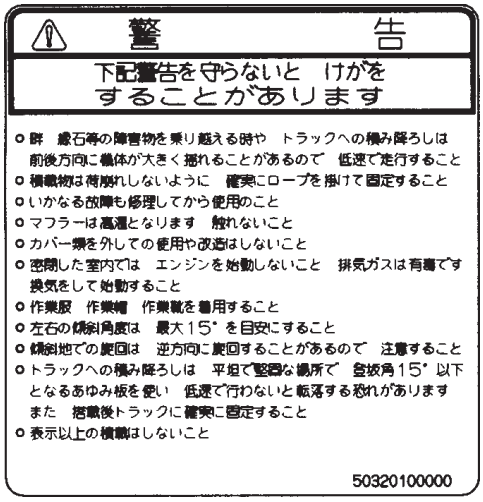
- 取扱説明書で解説されている機械には、３ページの表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に確認し、ラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベル（３ページの警告表示ラベル一覧のもの）を購入し、下図の指示番号位置に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。



CHS350-31

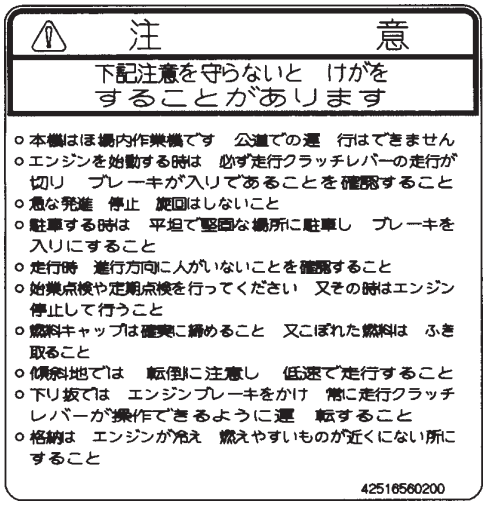
警告表示ラベル

1



50320100000

2



42516560200

3



50320120007

4



50320000003

5



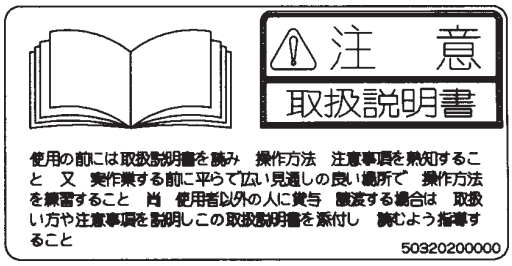
50320230003

6



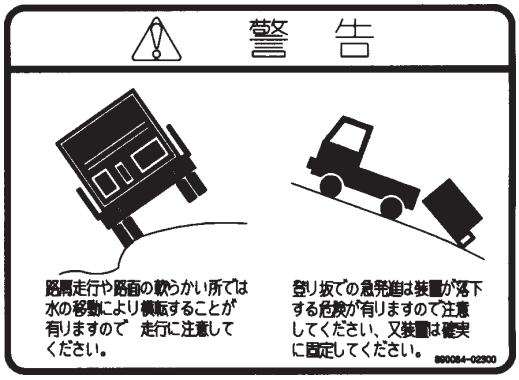
60206565800

7



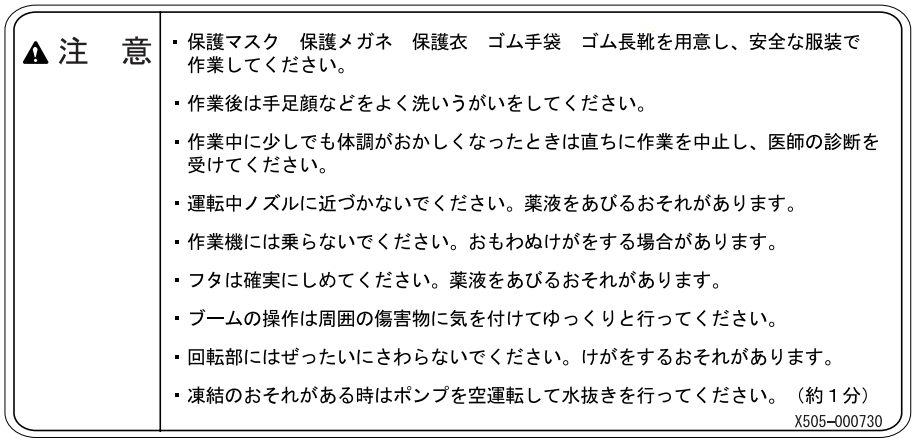
50320200000

8



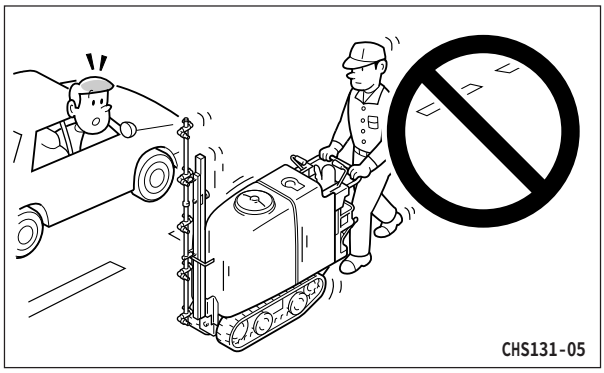
890084-02750

9



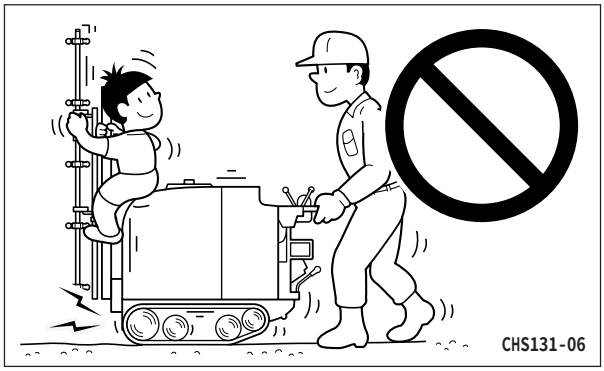
X505-000730

正しい作業のために



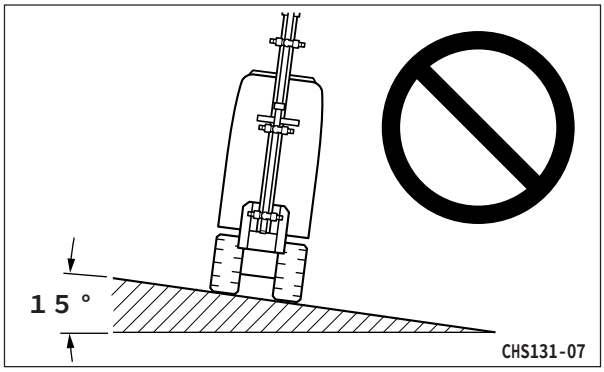
⚠ 警　告

クローラスプレーヤで一般道路を走らないでください。



⚠ 警　告

クローラスプレーヤに人を乗せて走行しないでください。



⚠ 危　険

１５ ℅以上の傾斜地での走行はしないでください。転倒することがあります。

農薬散布について

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。
お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行なってください。

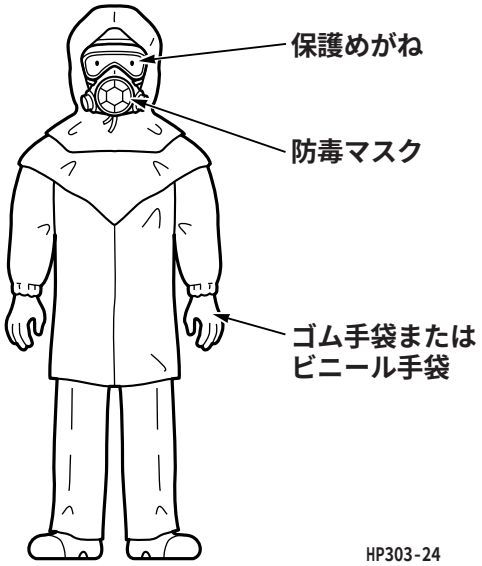


からだの状態

- **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。**

⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起こることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 警　告

- **夜間や、視界が悪く暗い場所では、本機を絶対に操作しないでください。**
- **風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。**



服装について

- **滑らない底が付いた靴をはいてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。**
- **農薬を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。**
- **農薬が浸透しないような防水性、汗をかかないような通気性のよい衣服を身に付けてください。**

農薬散布の保護具について

- **農薬を吸込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。**
- **目を保護するため、保護めがねを付けてください。**
- **ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。**
- **農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってください。**
- **タオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。**

農薬散布前の注意

- **農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。**
- **薬剤を溶かすときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。**
- **作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。**

農薬散布中の注意

- **散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。**
- **農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。**



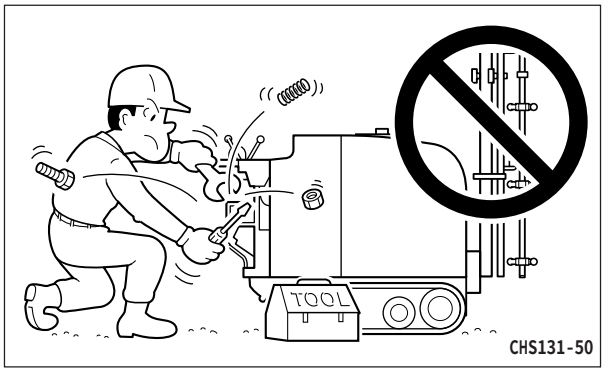
● 農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
● 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。

⚠ 警　告

散布作業中あるいは散布作業終了後に、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

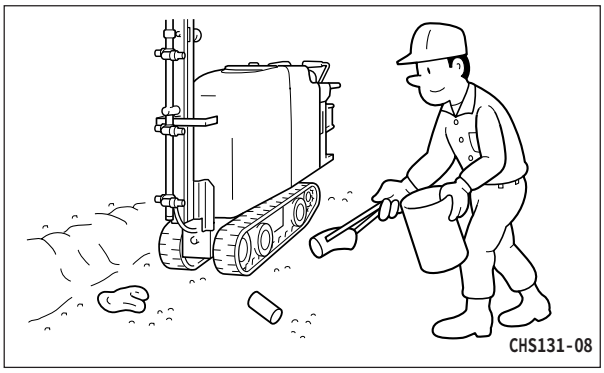
農薬散布後の注意

● ハウス内で防除作業を行なったときは、農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。
● 農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。周囲に影響がない場所に散布してください。散布用にうすめた農薬は分解が早いので、残さないでください。
● 農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。
● 農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。
● 農薬散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合､体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。



点検・整備について

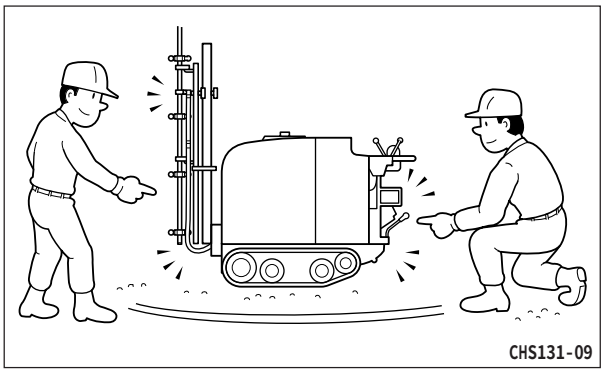
● この取扱説明書にしたがって点検・整備を行なってください。
● 当社指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。



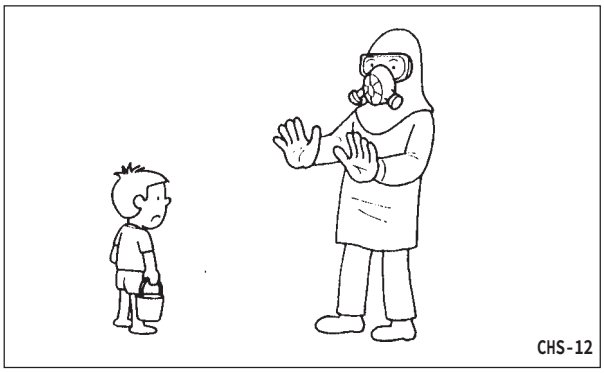
作業前の点検

● 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。

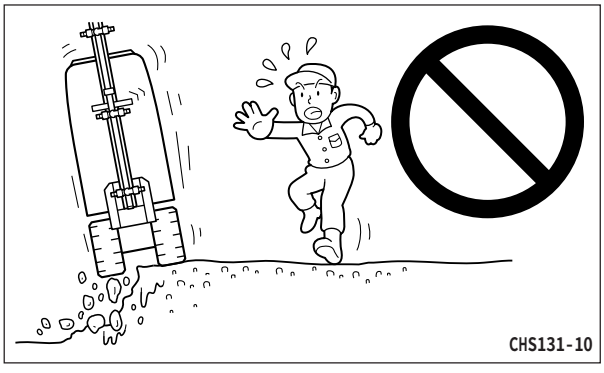
● 水を多く含んだ軟弱地は旋回能力が落ちると共に、本機内部に泥が入り込み故障の原因となりますので走行は行なわないでください。



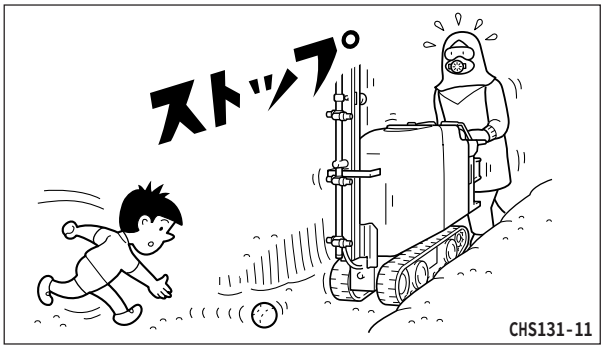
● ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。



● 子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



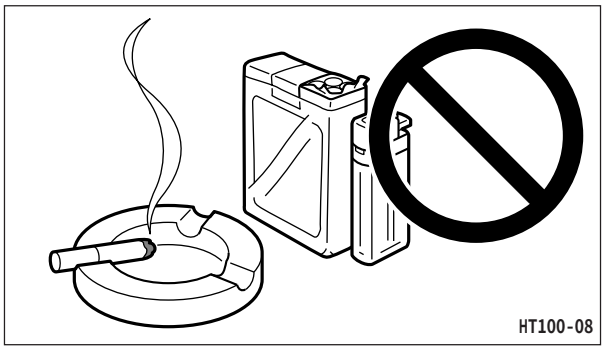
● クローラスプレーヤを不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



作業中の注意

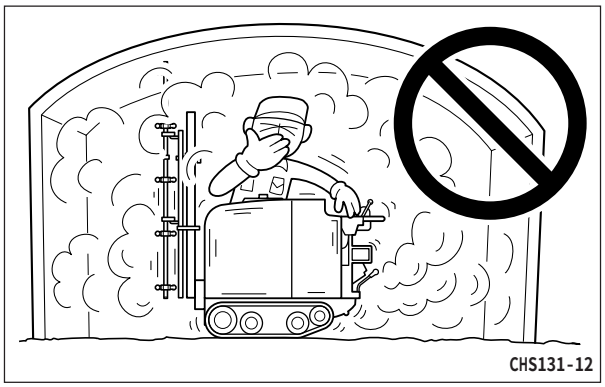
⚠ 警　告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。



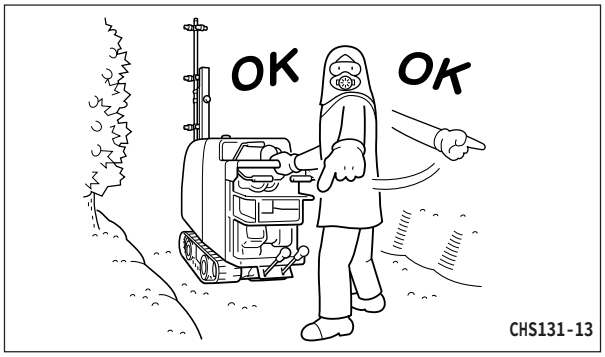
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



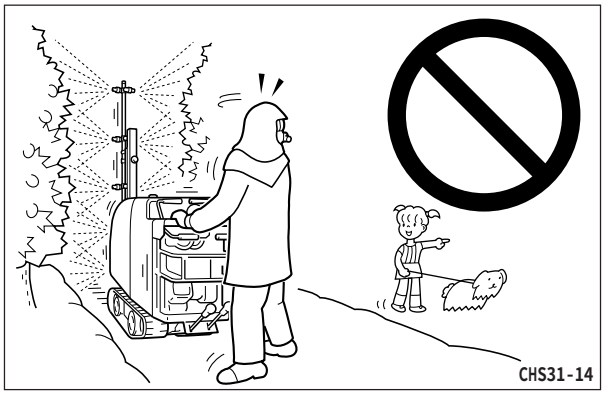
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

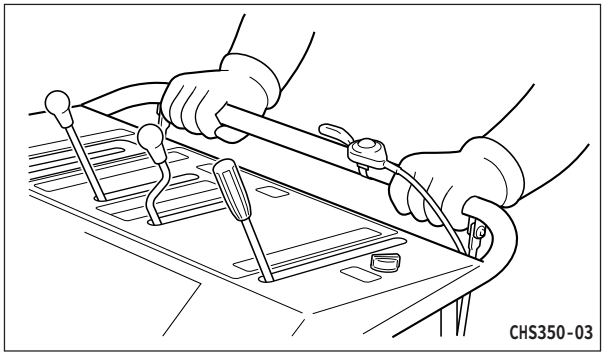


⚠ 警　告

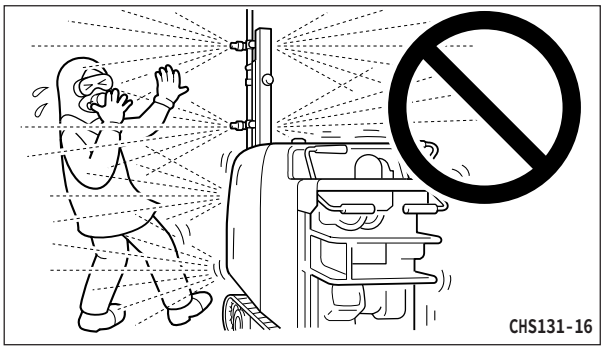
クローラスプレーヤを動かすときは必ず周囲の安全を確認してください。



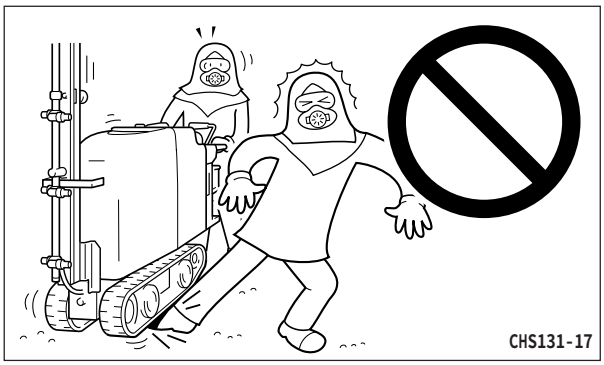
- **作業中はよそ見をしないでください。作業以外の場所を見なければいけないときは、作業を停止してください。**



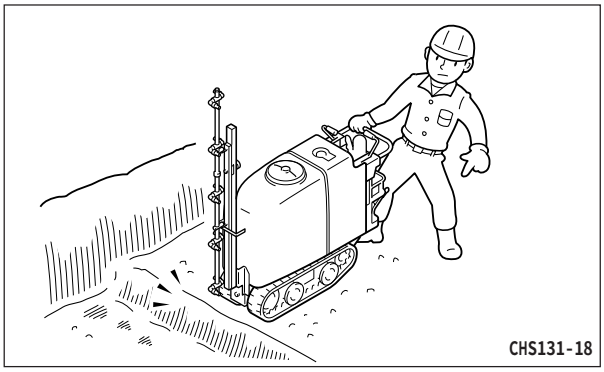
- **作業中はハンドルをしっかり握ってください。**



● 作業中はノズルにさわらないでください。ノズルの調整を行なうときは、作業を停止してください。

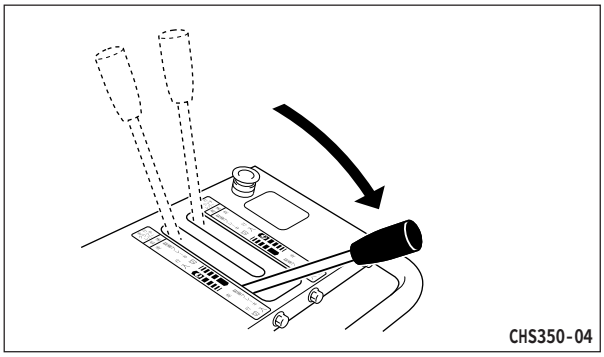


● クローラに足を踏まれないように注意してください。

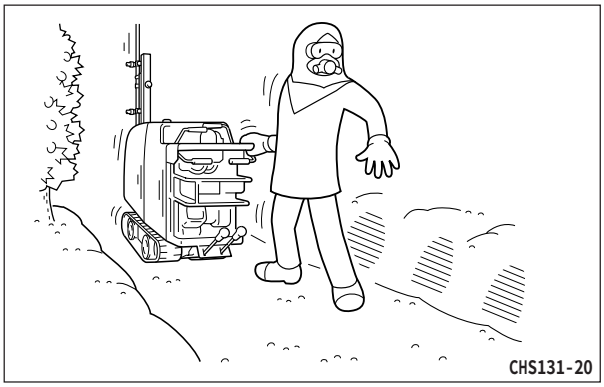


⚠ 警　告

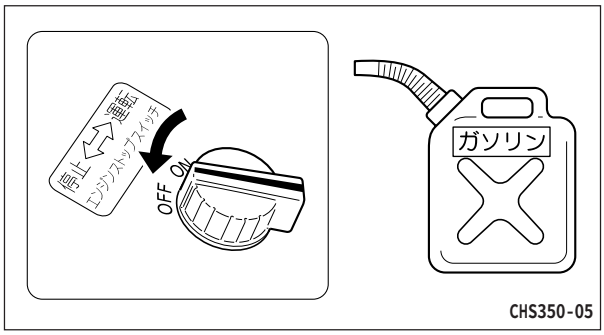
坂道、路肩、障害物、乗り越え、溝のある場所、軟弱地では速度を落とし、充分注意して走行してください。



● 速度を変えたり、進行方向を変えるときには必ず走行ブレーキレバーを“ 切 ”にしてください。

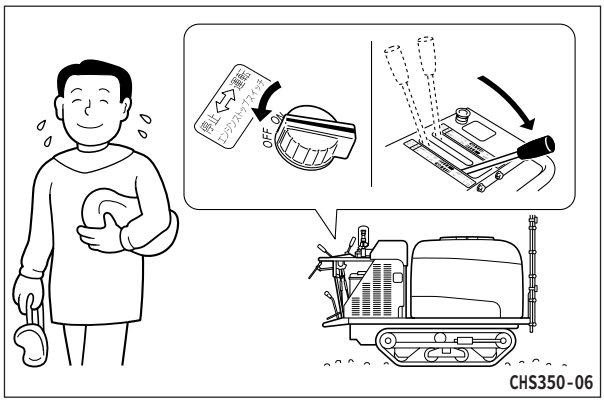


● 後進するときは、速度を落とし、障害物がないことを確認してください。足元には充分気をつけてください。



CHS350-05

● 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。

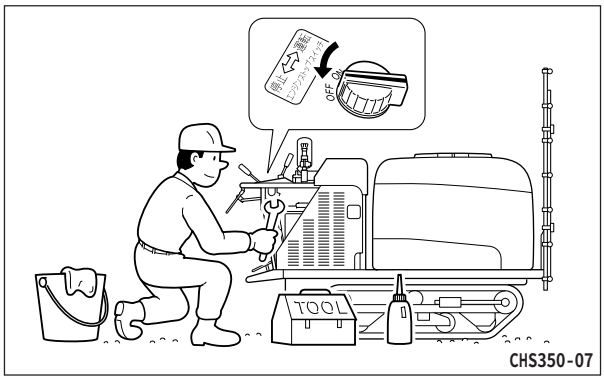


CHS350-06

● クローラスプレーヤから離れるときは､エンジンを停止してください。

⚠ 警　告

クローラスプレーヤから離れるときは､必ず駐車ブレーキを掛けてください。

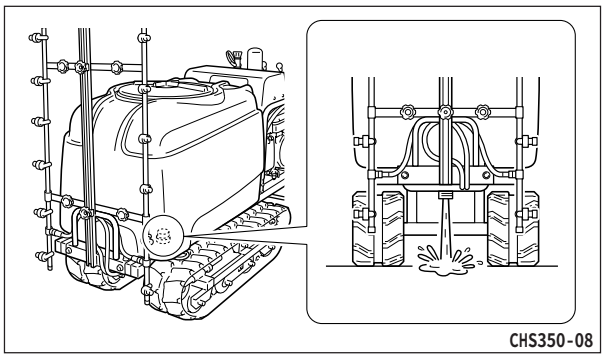


CHS350-07

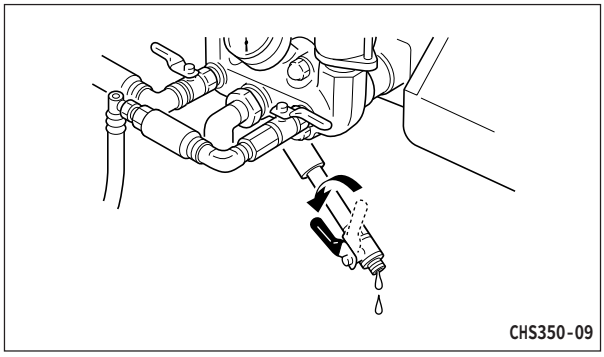
点検・整備の注意

⚠ 警　告

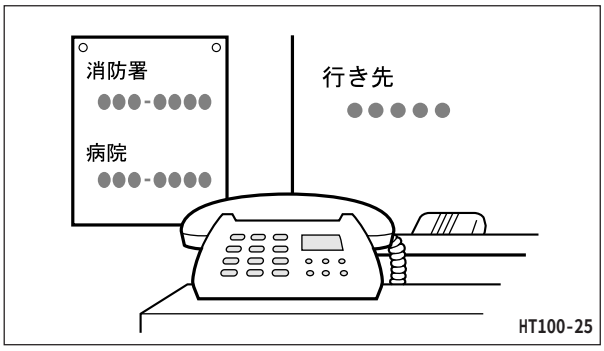
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ず運転を停止してください。


CHS350-08

● 保管する前に必ず薬液タンクドレンを外し、薬液や水などを抜いてください。冬期に凍結することがあります。


CHS350-09

● 動噴の補助コックを“開”にし、動噴内部の水を抜いてください。



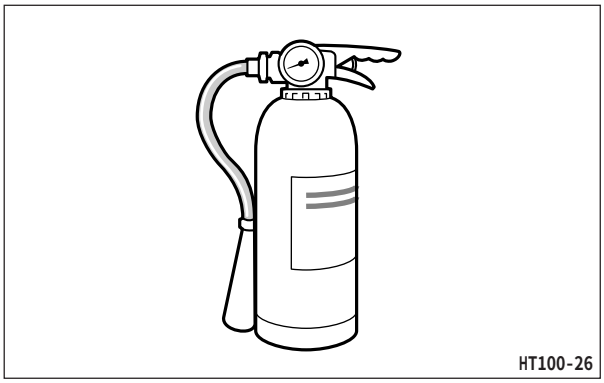
万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

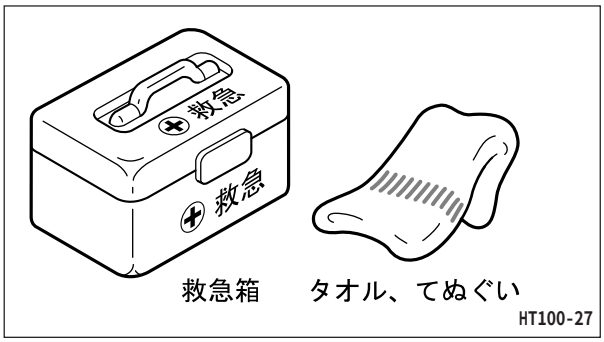


● 発火に対する備え

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械から離れ、まず、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。



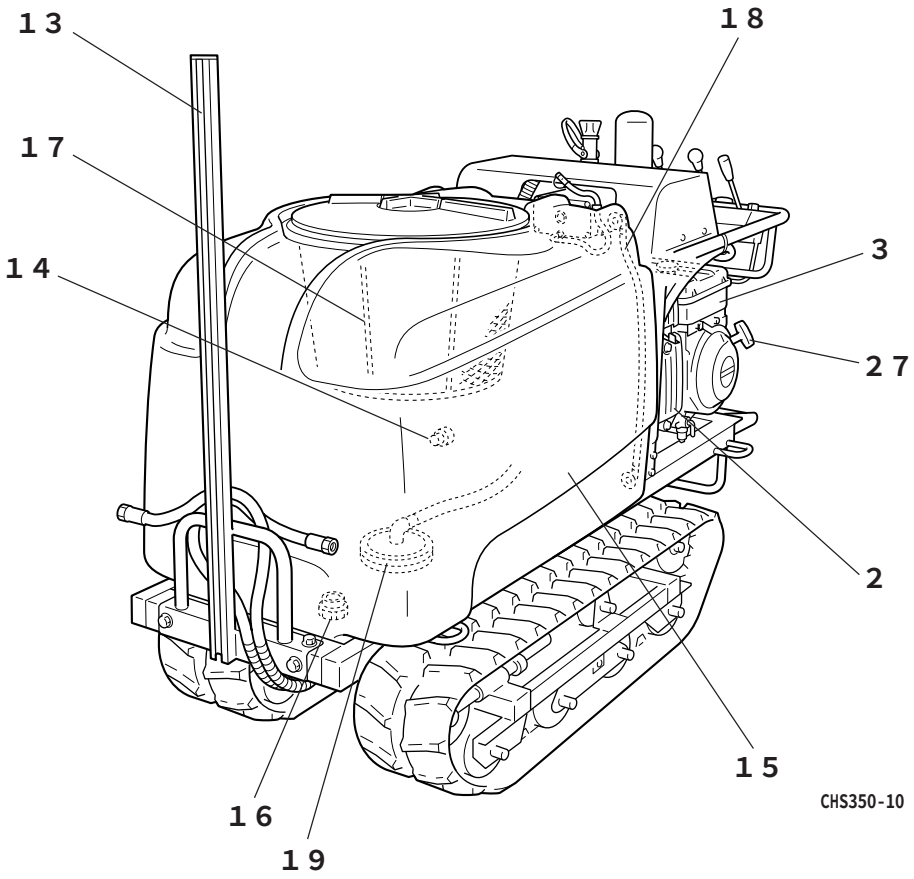
●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや､てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

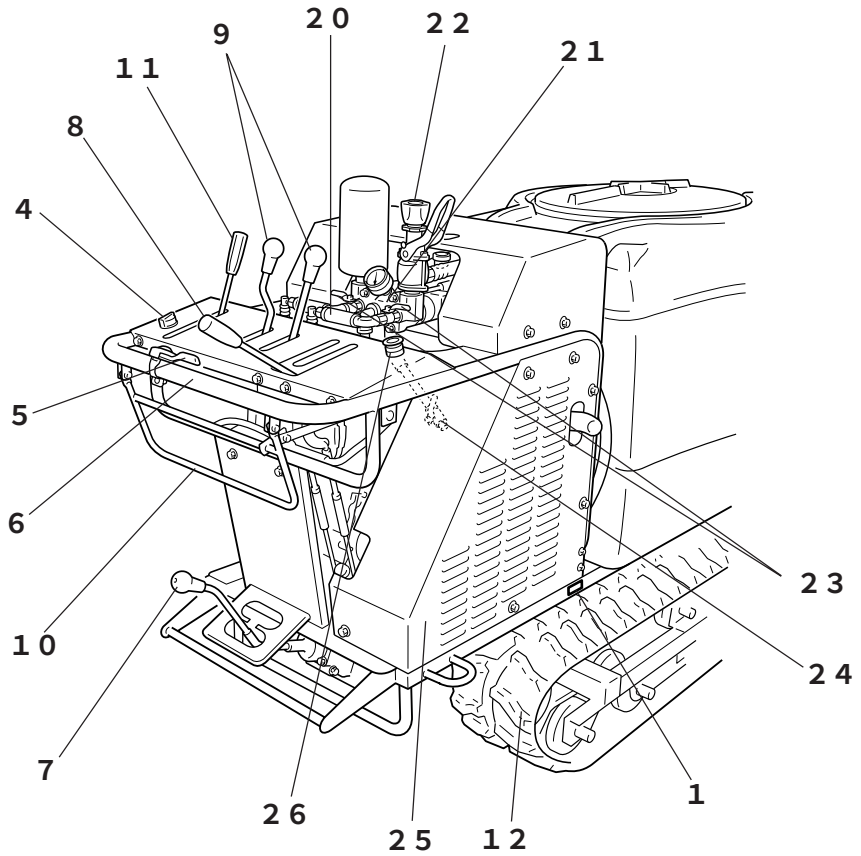
各部の名称

KIORITZ
取扱説明書
共立クローラスプレーヤ
28

取扱説明書
エンジン
28



CHS350-10

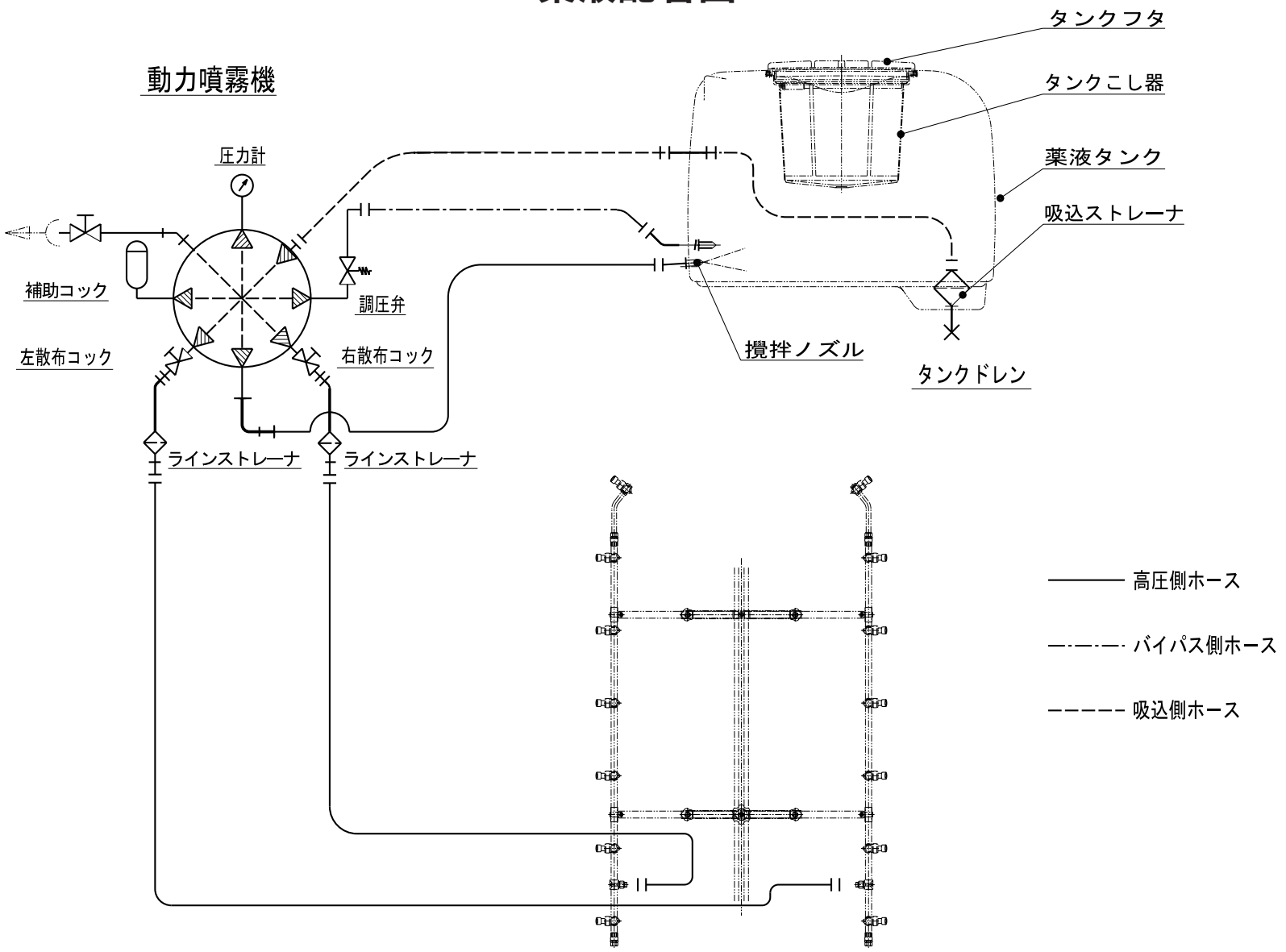


CHS350-11

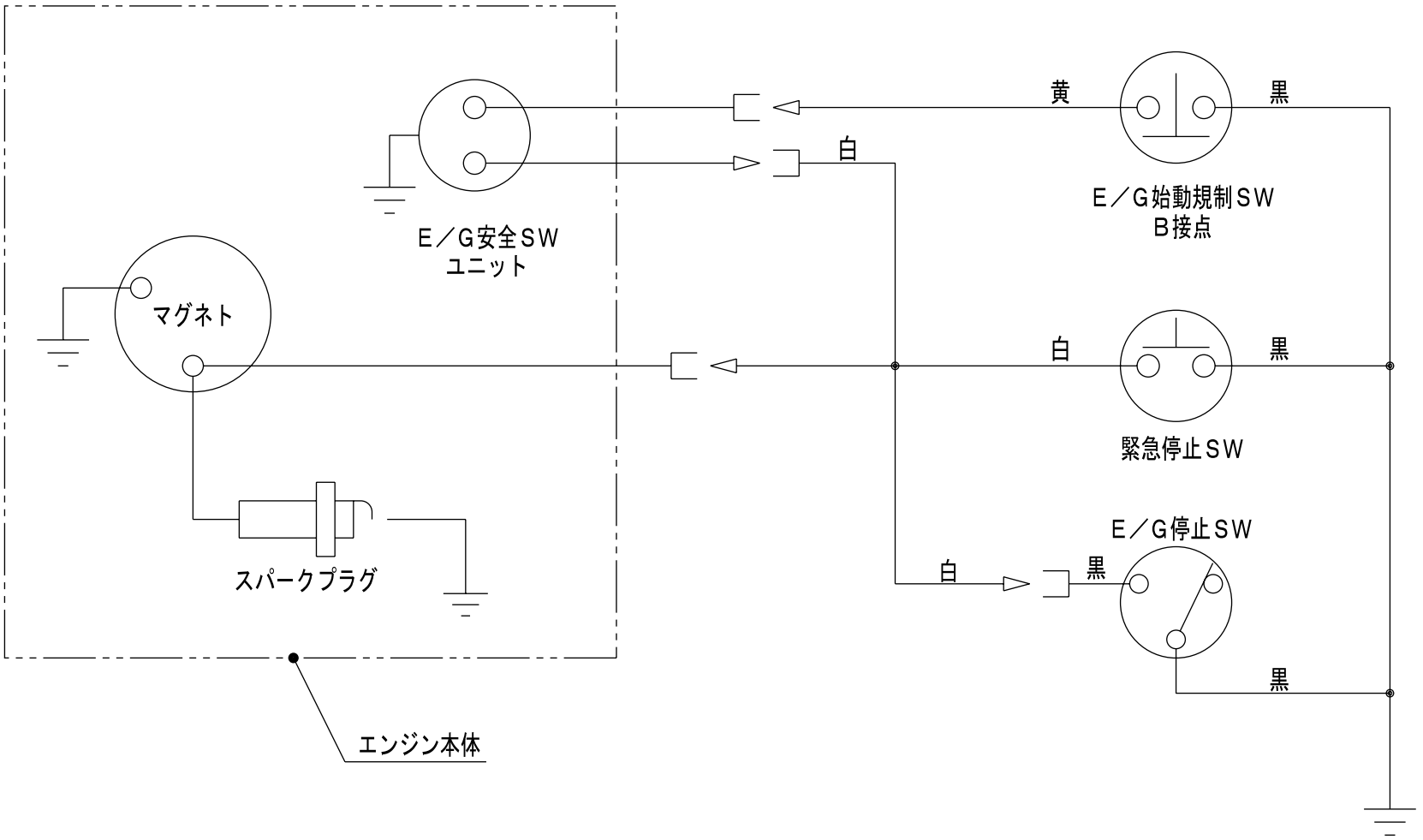
各部の名称とその機能

１．形式番号ラベル ――― お問い合わせの際にお知らせ願います。
２．エンジン ――― 動噴・走行用クローラ・油圧ポンプの**駆動源**です。
３．燃料タンク ――― エンジンの燃料タンクです。
４．エンジンストップスイッチ ――― エンジンを**停止**します。
５．スロットルレバー ――― エンジン回転を**変化**させます。
６．ハンドル ――― 走行時に持つ場所です。
７．変速レバー ――― **前進・後進・変速**の切替をします。
８．走行ブレーキレバー ――― **走行・停止**の切替をします。
９．サイドクラッチレバー ――― 左・右各々の操作により**左折・右折**をします。
１０．ワンタッチブレーキレバー ――― 腹部などで押して、ワンタッチで**走行を停止**します。
１１．動噴クラッチレバー ――― 動噴の**駆動・停止**を切替します。
１２．ゴムクローラ ――― 走行用クローラです。
１３．ノズル取付支柱 ――― 各種ノズルを取付けます。
１４．撹拌ノズル ――― 薬液を撹拌します。
１５．薬液タンク ――― 薬液を入れるタンクです。
１６．タンクドレン ――― タンクの残液を抜きます。
１７．タンクこし器 ――― タンクへ入れる水などを**こします**。
１８．液量計 ――― 薬液の**残量を確認**します。
１９．吸込ストレーナ ――― 動噴の吸込む**薬液をろ過**します。
２０．ラインストレーナ ――― ノズルへ行く**散布水をろ過**します。
２１．動噴 ――― 散布薬液の圧力を昇げ、圧送します。
２２．調圧弁 ――― 動噴の**圧力を調整**します。
２３．散布コック ――― 散布ノズル右、左の**散布⇔停止**をします。
２４．補助コック ――― 圧力水の**取出し**と動噴の**ドレン兼用**です。
２５．ベルトカバー ――― 駆動ベルトの**安全カバー**です。
２６．緊急停止スイッチ ――― 緊急時にエンジンを停止するときに使用します。
２７．リコイルスタータハンドル ――― エンジンを始動するときに使用します。
２８．取扱説明書 ――― 必ずお読みください。

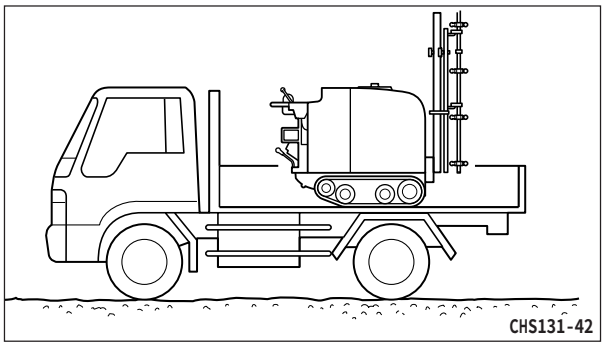
薬液配管図

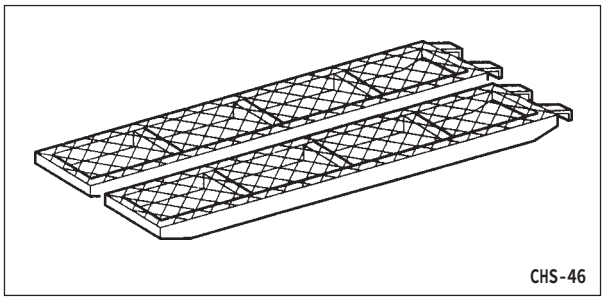

動力噴霧機
圧力計
補助コック
調圧弁
左散布コック
右散布コック
ラインストレーナ
ラインストレーナ
タンクフタ
タンクこし器
薬液タンク
吸込ストレーナ
撹拌ノズル
タンクドレン
高圧側ホース
バイパス側ホース
吸込側ホース

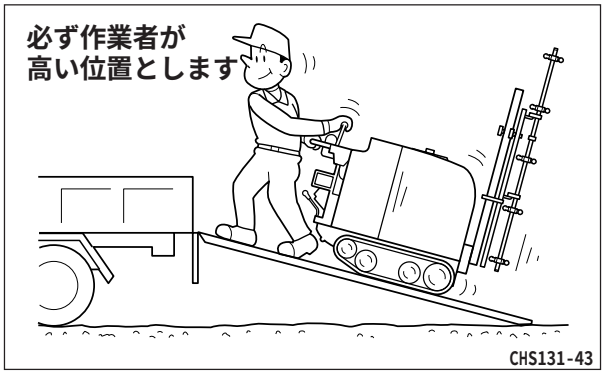
配　線　図


E／G安全SW
ユニット
マグネト
スパークプラグ
エンジン本体
黄
黒
白
E／G始動規制SW
B接点
白
黒
緊急停止SW
E／G停止SW
白
黒
黒

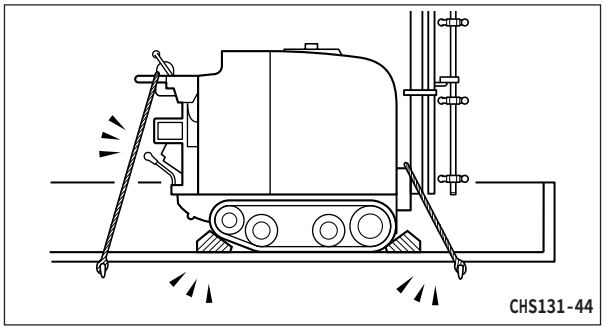
輸送・移動時の注意


CHS131-42


CHS-46



CHS131-43


CHS131-44

- クローラスプレーヤの荷重に耐えられる輸送機を使用してください。
- エンジンを停止してください。
- 燃料をカラにしてください。
- 薬液タンクをカラにしてください。
- 変速レバーを“中立”以外にしてください。
- ノズルステー部の各ロックボルトを確実に締付けてください。

- 充分な強度と長さがあり、スベリ止めの付いたアユミ板を使用してください。

- 積み降ろしは低速で行なってください。アユミ板の上で方向変換はしないでください。
  荷台の高さの２倍以上の長さのアユミ板を使用してください。

⚠ 危　険

本機の積み込みは必ず後進で、積み降ろしは必ず前進で行なってください。（作業者が高い位置で行ないます。）
本機のバランスがくずれ本機の下敷きとなり、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

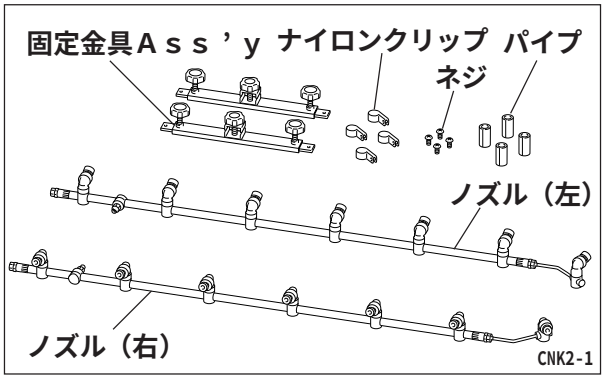
⚠ 警　告

下部フレームおよびハンドルにロープなどを掛け固定し、クローラに歯止めを掛けてください。

重　要

ノズル管スタンドの上部やタンクなどには絶対にロープ掛けをしないでください。

使用準備



CNK2-1

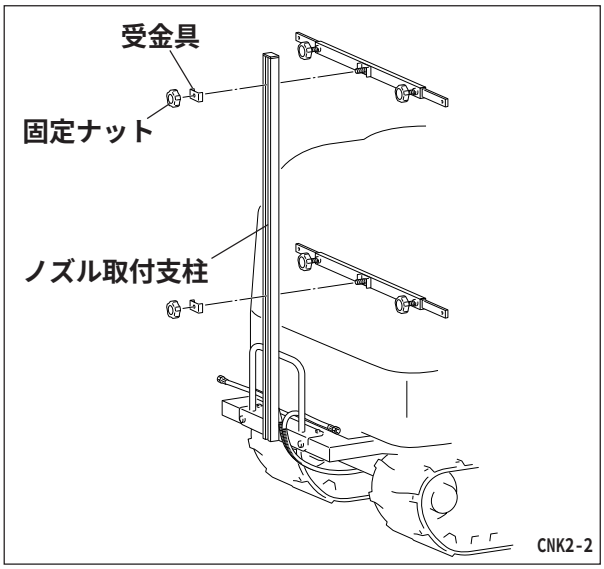
ノズル・ＣＮＫ２の取付け

（他のアタッチメントノズルを取付ける場合は、それぞれの取扱説明書を読んでください。）

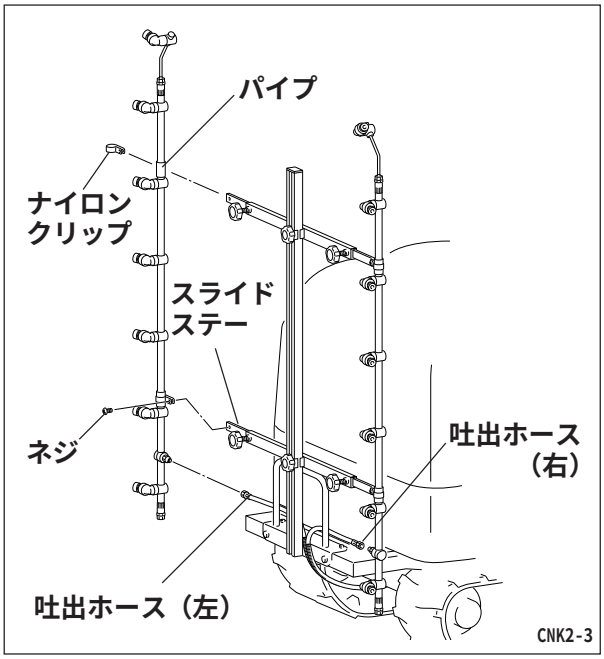
⚠ 警　告

ノズル管を取付けるときは、必ずエンジンを停止してください。

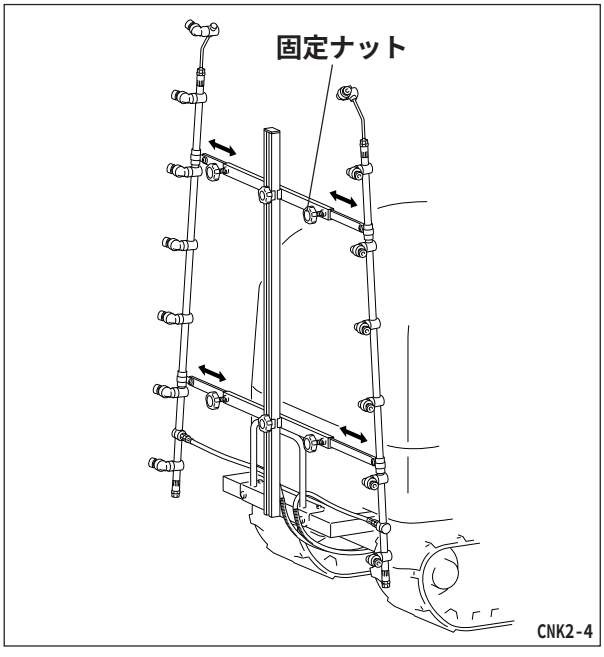
１．ノズルキット・ＣＮＫ２に左図の部品があることを確認してください。



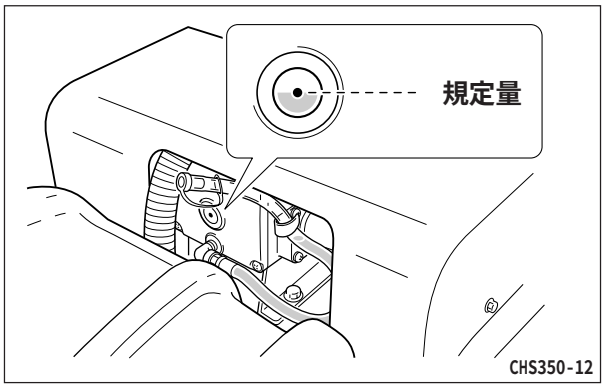
２．固定金具Ａｓｓ’ｙ（２ヶ）の固定ナット受金具を外し、ノズル取付支柱に組付けてください。



３．ノズル（右）および（左）のナイロンクリップ取付部にパイプを取付け、その上にナイロンクリップを取付けてください。
次に、固定金具スライドステー部のネジ孔に（＋）ドライバーなどを用い、ネジでノズルを取付けてください。



４．固定ナットをゆるめ、散布状況に合わせてノズルの幅を調整してください。
調整後は、ゆるまないように固定ナットをしっかりと締めてください。

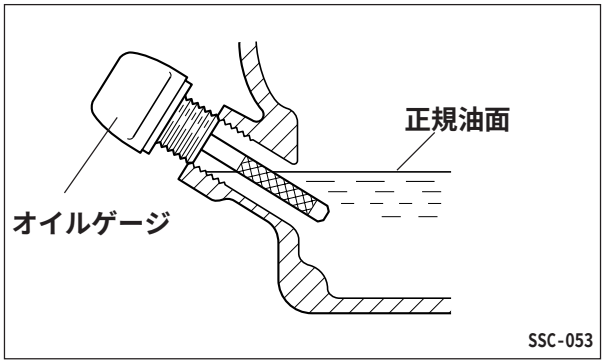


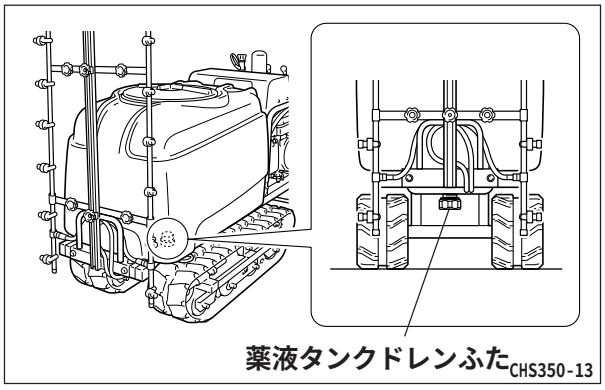
オイルを入れる

動噴とエンジンのオイル量を各オイルゲージで確認してください。少ない場合は補充してください。

重　要

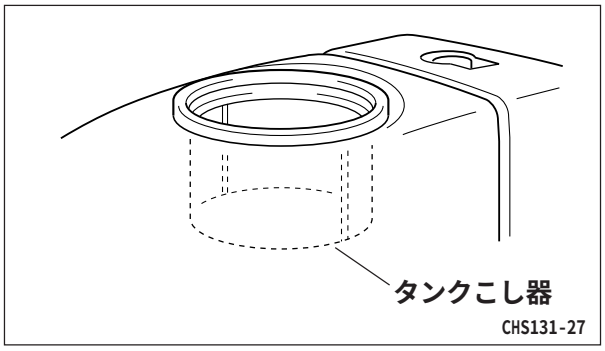
- 動噴のオイルの種類や補充は、２６ページの点検・整備の項を参照してください。
- エンジンオイルの種類や補充は、エンジンの取扱説明書にしたがってください。





薬液を入れる

- 薬液タンクドレンのふたが確実に締まっていることを確認します。



- 薬液を、タンクこし器を通して、薬液タンクに入れます。

重　要

薬液をタンクに入れる前に、あらかじめ別の容器で混ぜてください。

- 燃料タンクに燃料を入れます。
  - ・燃料は自動車用無鉛ガソリンです。
  - ・燃料に水分やゴミが入っていると、エンジン不調となります。きれいな新しい燃料を使用してください。

重　要

燃料は必ず無鉛ガソリンを使用してください。

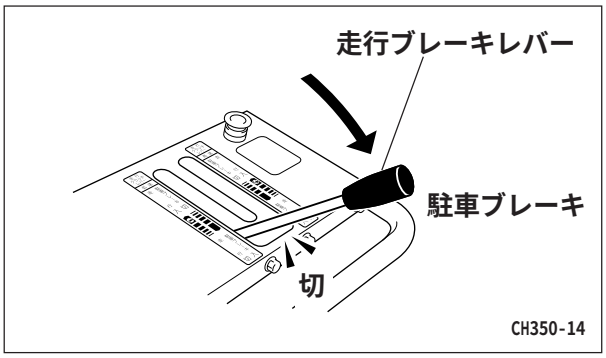
⚠ 警　告

燃料を入れるときは、必ずエンジンを停止してください。

作業を行なう

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



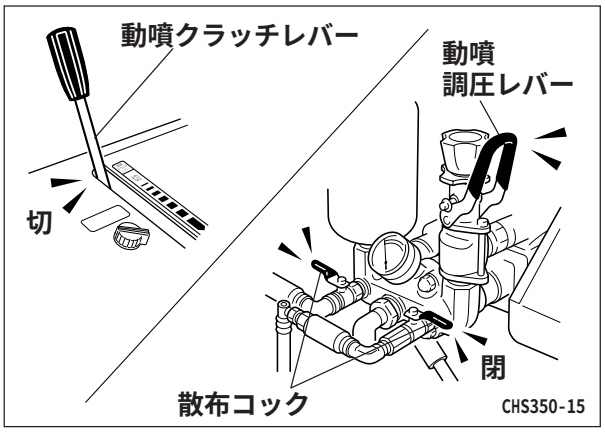
エンジンを始動する

1．以下のことを確認してください。

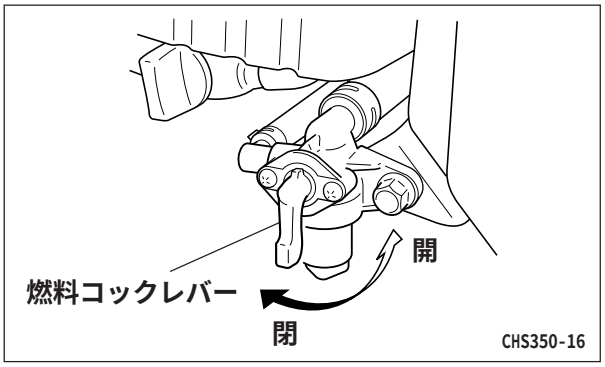
- **走行ブレーキレバーが駐車ブレーキ位置となっている。**

重　要

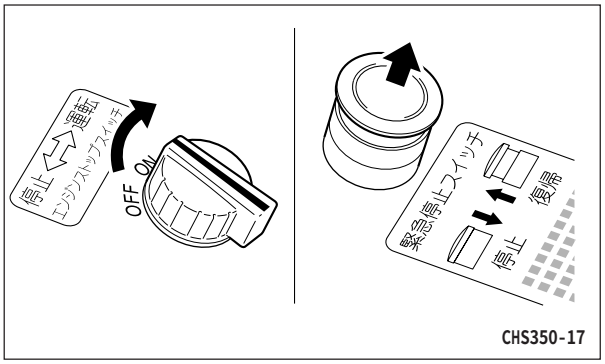
- **走行ブレーキレバーが“ 切 ”の位置にあることを確認してください。走行ブレーキレバーが駐車または“ 切 ”位置のときのみ、エンジン始動ができます。**
- **各変速レバー共に“ 中立 ”位置にしてください。**



- **動噴調圧レバーが上がっている。**
- **動噴クラッチレバーが“ 切 ”の位置にある。**
- **散布コック、補助コックが閉じている。**



2．燃料コックレバーを開きます。

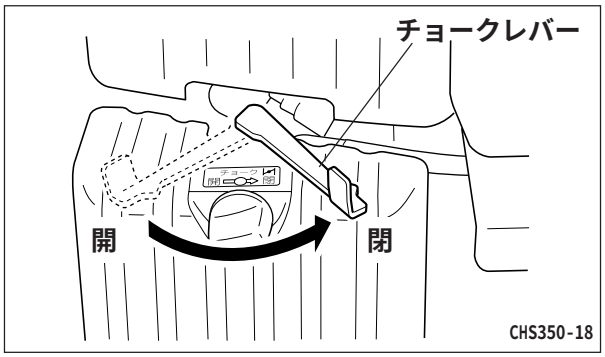


3．エンジンストップスイッチを“ 運転 ”位置にします。

※ 緊急停止スイッチの取扱いと操作

緊急停止スイッチは、緊急時、本機の走行を停止させるときに使用します。スイッチを押すとエンジンが停止します。

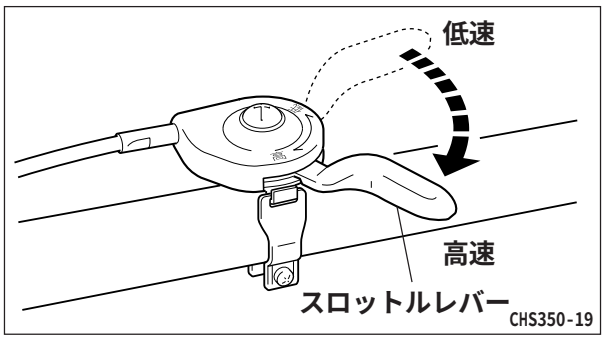
復帰させるときは、再度スイッチを押してください。通常使用時は、復帰状態で使用してください。



4．リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動します。

重　要

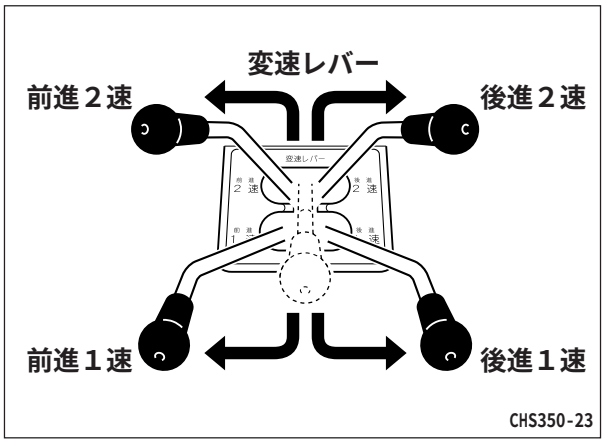
エンジンが冷えているときは、チョークを“ 閉 ”にしてからリコイルスタータを引いてください。
エンジンが始動したら必ずチョークを“ 開 ”にしてください。



5．スロットルレバーを動かしてエンジンの回転数を調整します。

重　要

エンジンの始動はエンジンの取扱説明書にしたがってください。



走行を行なう

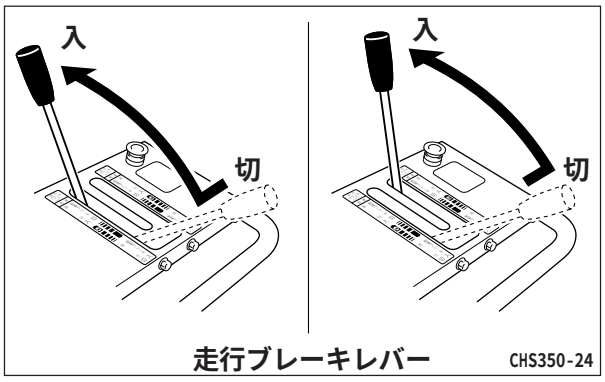
1．前進するときは変速レバーを前進に、後進するときは後進に入れます。

2．低速走行するときは変速レバーを１速に、高速走行するときは２速に入れます。

3．走行ブレーキレバーでも低速、高速を選ぶことにより、全部で４通りの変速ができます。

重　要

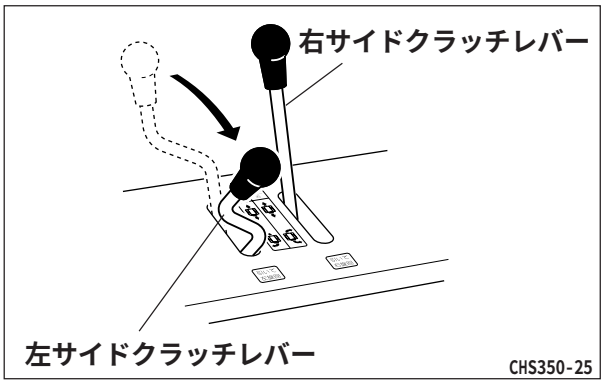
変速レバーは確実に操作してください。走行中にギアが抜けたり、故障の原因となります。
変速レバーの操作は、走行ブレーキレバー位置が、切または駐車位置で本機が確実に停止しているときに行なってください。



4．走行ブレーキレバーをゆっくり“ 入 ”の位置にすることにより走行を開始します。

重　要

走行を開始したら、走行ブレーキレバーを確実に“ 入 ”の位置にします。
中間位置で走行すると故障の原因となります。



旋回を行なう

1．左に旋回するときは､左のサイドクラッチレバーを引きます｡右に旋回するときは､右のサイドクラッチレバーを引きます。

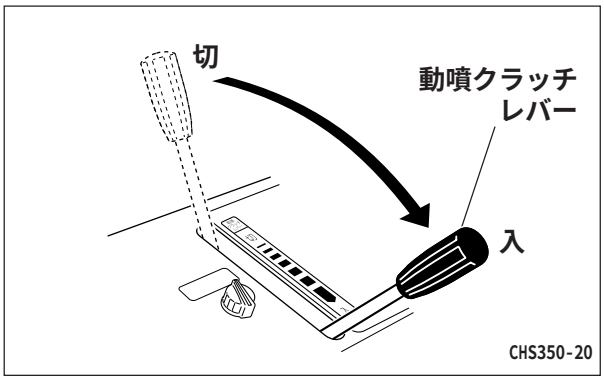
重　要

それぞれのサイドクラッチレバーは確実に引く、またははなすように操作してください。
中間位置での使用は故障の原因となります。

2．旋回後はサイドクラッチレバーをはなしてください。

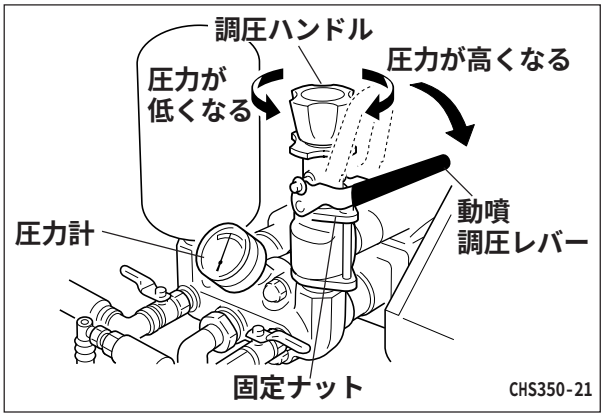
⚠ 警　告

旋回する方向に人､障害物のないことを確認し、ゆっくりと行なってください。



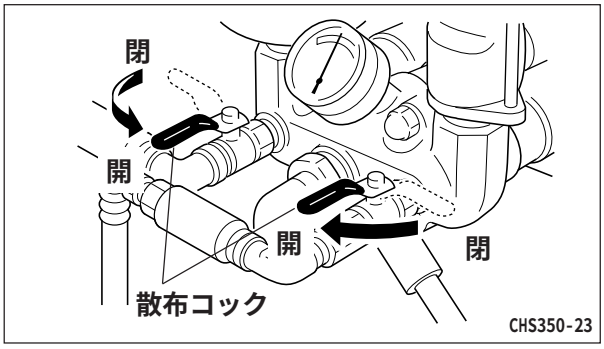
散布を行なう

1．動噴クラッチレバーを“入”の位置にします。



2．動噴調圧レバーを下げて圧力計が動くことを確認してください。
調圧ハンドルを回して散布圧力を設定します。
[最高圧力：３．０MPa（３０kgf/cm²)]
調整後､固定ナットで調圧ハンドルを固定します。

3．薬液タンクのふたを開けて､薬液のかくはん状況を確認してください｡適切なかくはんを行なうために､ノズルの総噴霧量を１８L/min以下としてください。



重　要

このスプレーヤは､薬液のかくはんを動噴の余水（循環水）にて行なっていますので、薬液投入後は､散布終了まで動噴を運転し薬液のかくはんを行なってください。

4．散布コックを開きます。

● 散布量（Ｌ／１０ａ）は

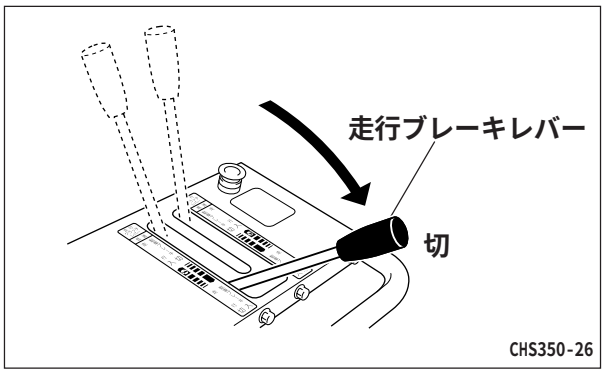
$$Q = \frac{60 \cdot Qn}{L \cdot V}$$

Ｑ　：散布量（Ｌ／１０ａ）
Ｑｎ：ノズル総吐出量（Ｌ／min）
Ｌ　：散布幅（m）
Ｖ　：走行速度（ｋｍ／ｈ）

● 例えば圧力２．０ＭＰａ、ノズル吐出量１６．２Ｌ／ｍｉｎ、走行速度１．４ｋｍ／ｈ、散布幅２．５mの場合。

$$Q = \frac{60 \cdot 16.2}{2.5 \cdot 1.4}$$

２８０（Ｌ／１０ａ）

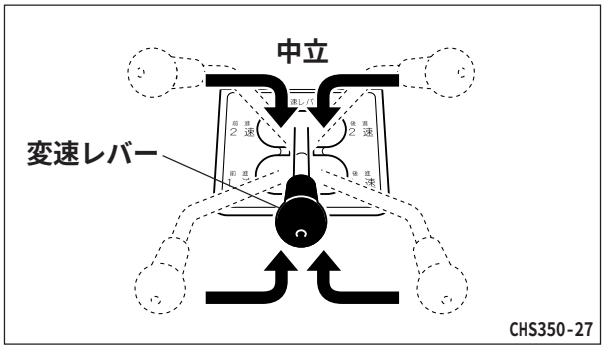


走行を停止する

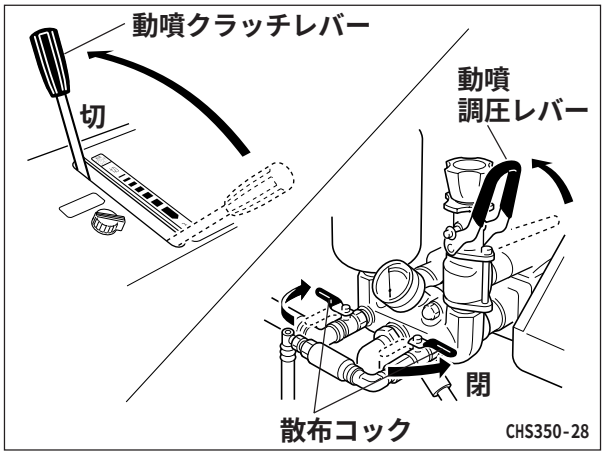
１．走行ブレーキレバーを“切”の位置とします。

重　要

ワンタッチブレーキレバーにて緊急停止ができます。走行ブレーキレバーと連動です。



２．変速レバーを“中立”の位置にします。

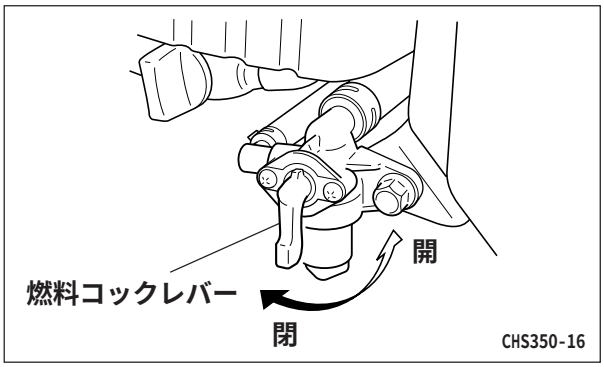


散布を停止する

１．散布コックを閉じます。

２．動噴調圧レバーを上げます。

３．動噴クラッチレバーを“切”の位置にします。



作業を終了する

1．エンジンストップスイッチを“ 停止 ”位置にして、エンジンを停止します。

2．燃料コックレバーを“ 閉 ”の位置にします。

散布終了後の手入れ

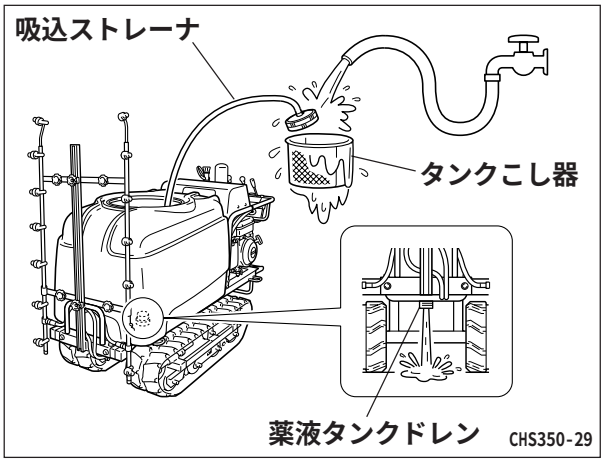
清掃

1日の噴霧作業が終わったら､次の要領で使用後の清掃をしてください。

清浄運転

薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄します｡機体は常に清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

- 薬液タンクに清水を補給し、散布の要領でノズルから吐き出し、薬液配管内の洗浄を行ないます。
- タンクこし器、吸込ストレーナ、撹拌ノズルをきれいにします。
- 薬液の粗粒が詰まっていることが多いのでよく清掃してください。



凍結の恐れがある場合

1．薬液タンクドレンを外しタンクをカラにします。

2．エンジンを運転し､動噴クラッチレバーを‘ 入 ”にし､ノズルから水が出なくなるまで水抜きをします。

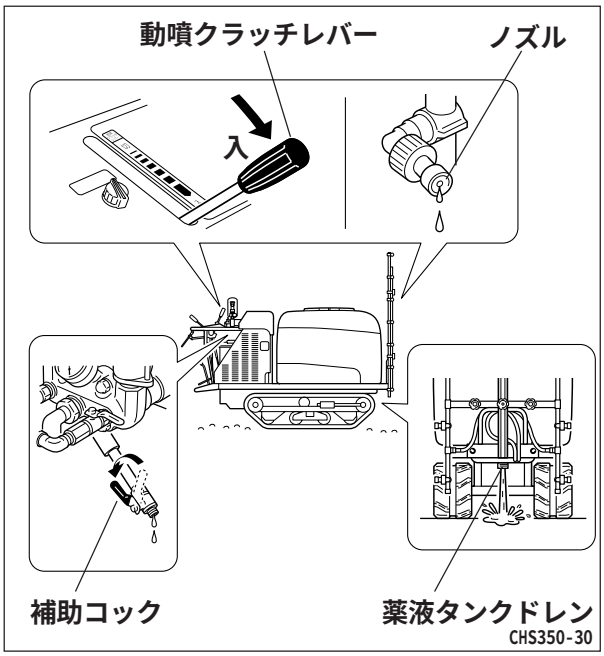
3．送水ホースをノズル部より外します。

重　要

動噴は、５分間以上カラ運転をしないでください。

4．補助コックを“ 開 ”とし、動噴内部の水を抜きます。

5．その他の方法として、薬液タンク内に不凍液を入れ動噴を無圧力で運転し､ノズルから吐出した時点に停止させることにより､配管内に不凍液を充満させ、凍結を防止することもできます。



重　要

凍結による不具合などは、メーカの責任外となりますので、ご注意ください。

点検・整備

本機の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、本機を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。

- 始業点検は、使用者の方が行なうものです。
- 点検して異常があった場合は、すみやかにお買い求めの販売店または整備工場へ修理を依頼してください。
- 不明な点がありましたら当社営業所までお問い合わせください。

◎‥‥使用者は、エンジン始動前に点検してください。
●‥‥使用者は始業前に、エンジンを始動させて点検してください。

項目	点検内容	点検時期			
		始業	初回20時間	100時間毎	1年または300時間毎
各Vベルト	ベルトの張りは適正か		○	○	
	亀裂、損傷はないか		○	○	
ミッション	油量は適切か		○	○	
	油の汚れはないか			○	
	油漏れはないか	◎			
	油の交換				○
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	◎			
	燃料キャップは確実に締まっているか	◎			
可燃物の付着	本機およびエンジンに草、屑などの可燃物が付着していないか	◎			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	●			
マーク類	マークのはがれ、脱落、損傷はないか	◎			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				○
足回り	ゴムクローラの亀裂、損傷はないか	◎			
	遊動輪の亀裂、損傷および摩耗はないか				○
	クローラ張りの調整		○		
エンジン	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			
カバー類	各カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				○
	各カバー類に脱落はないか	◎			

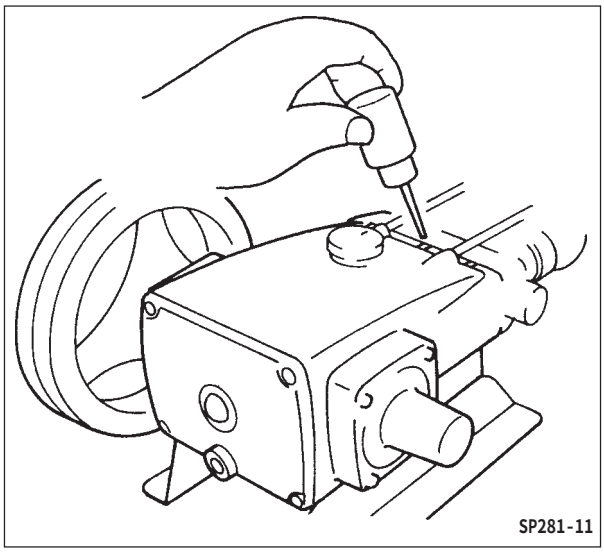
項　　目	点　　検　　内　　容	点　検　時　期			
		始　業	初　回 20時間	100時間 毎	1年または 300時間毎
スロットルレバー	レバーの動きに合わせて、エンジン回転数が変化するか	●			
サイドクラッチレバー	本機が旋回するか	●			
	レバーの遊び代は適切か		○		
	サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
変速レバー	各変速位置に入るか	●			
走行ブレーキレバー	レバーは確実に入り戻るか	●			
	スムーズな発進と停止ができるか	●			
	走行クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
駐車ブレーキ	右サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴クラッチレバー	レバーは確実に入り戻るか	◎			
	動噴クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			

動力噴霧機の点検・整備

プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行なってください。）

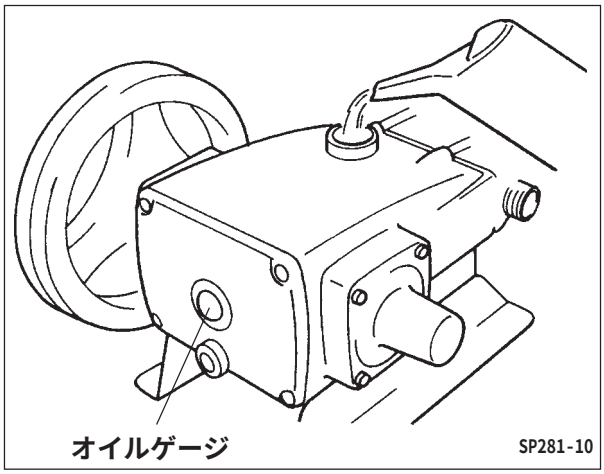
低速で運転しながら､付属のオイラでプランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。

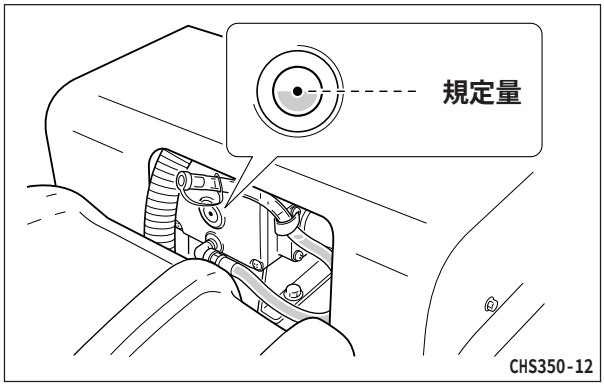


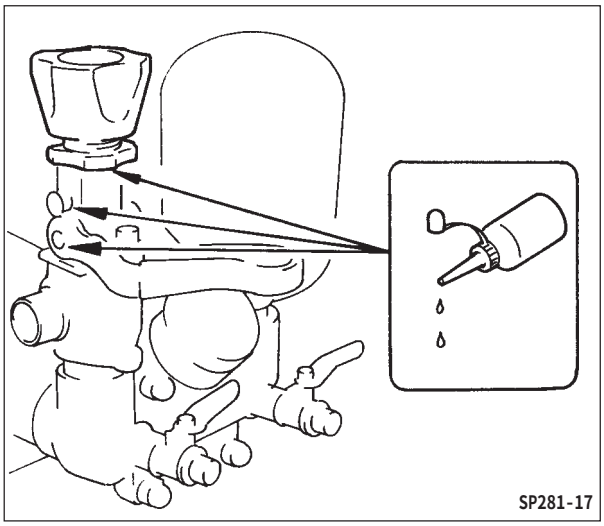
クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

クランクケースのオイルはＳＣ､ＳＤ､またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。
・規定量……レベルゲージ中央迄約０．５５Ｌ



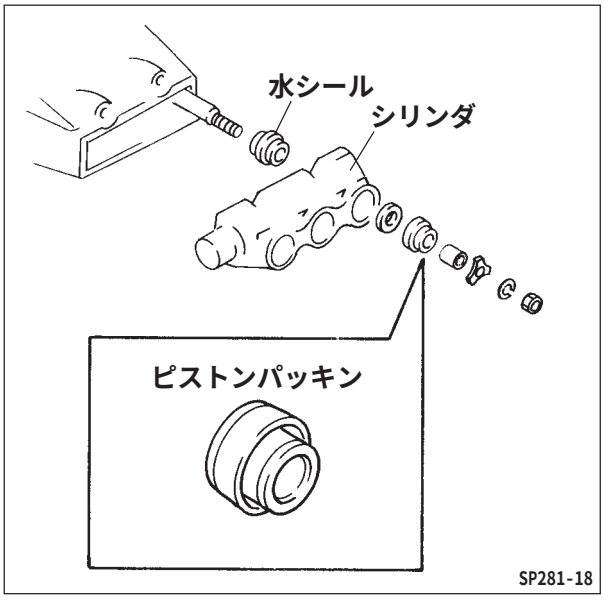




調圧レバーの周り

（使用時期前に行なってください。）

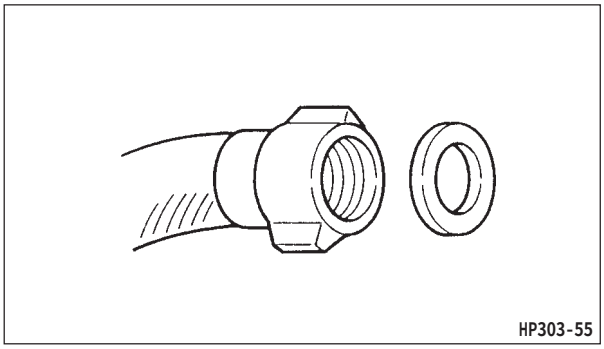
オイラで給油してください。



ピストンパッキン・水シール

長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはピストンパッキン･水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

重　要
ピストンパッキンおよび水シールの交換のときに、向きを間違えないようにしてください。



継手パッキン

（毎年、使用する前に点検してください。）

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

故障対策

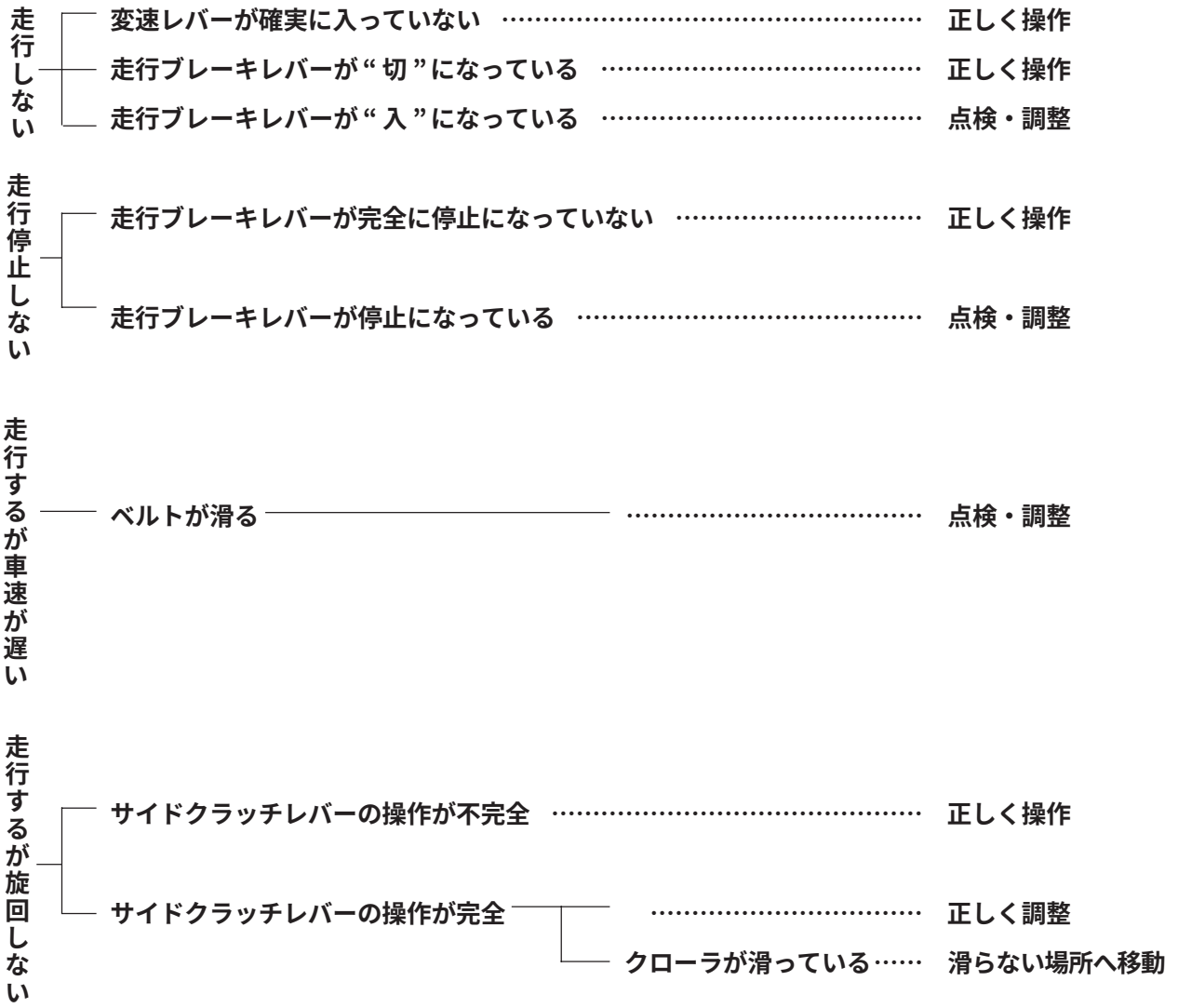
（☆印は販売店あるいは地区共立エコーでの調整がのぞましいもの）

故障探求表　クローラスプレーヤを防除時期に満足に使用していただくためにはいつも点検・整備を忠実にしていただくことです。万一運転不調を生じた場合は次の故障探求表によって順次しらべるようにしてください。ご不明の点はお買い求めの販売店あるいは地区共立エコー株式会社にご相談ください。

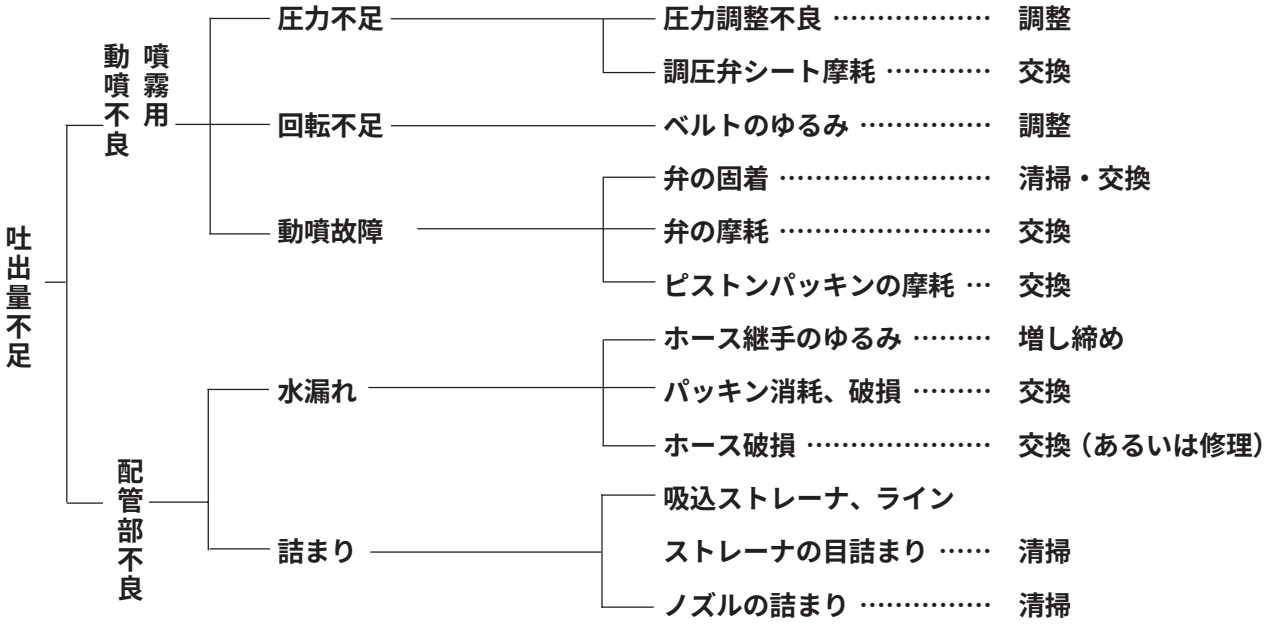
・エンジン関係

エンジンが始動しないまたは困難	リコイルが引けない	エンジンの焼き付き ……	☆修理・交換
		異物のかみ込み ……	☆清掃・交換
	リコイルが引ける	燃料タンクに燃料がない ……	補給
		燃料コックが閉じている ……	正しく操作
		気温が低い ……	チョークを閉とする
		スイッチが運転になっていない ……	正しく操作
		走行ブレーキレバー“切”または“駐車”になっていない ……	正しく操作
	エンジンは始動するが回転が続かない	低速回転の調整不良 ……	調整
		燃料に水またはゴミの混入 ……	清掃
		チョークレバーが閉になっている ……	正しく操作
エンジン出力不足	スロットルが全開になっていない ……		正しく操作・調整
	吸入空気量の不足	チョークレバーが完全に開になっていない…	正しく操作
		エアクリーナの汚れ ……	清掃・交換

・走行関係


走行しない
変速レバーが確実に入っていない …… 正しく操作
走行ブレーキレバーが“切”になっている …… 正しく操作
走行ブレーキレバーが“入”になっている …… 点検・調整
走行停止しない
走行ブレーキレバーが完全に停止になっていない …… 正しく操作
走行ブレーキレバーが停止になっている …… 点検・調整
走行するが車速が遅い
ベルトが滑る …… 点検・調整
走行するが旋回しない
サイドクラッチレバーの操作が不完全 …… 正しく操作
サイドクラッチレバーの操作が完全 …… 正しく調整
クローラが滑っている…… 滑らない場所へ移動

・薬液散布関係


吐出量不足
噴霧用
動噴不良
圧力不足
圧力調整不良 …… 調整
調圧弁シート摩耗 …… 交換
回転不足
ベルトのゆるみ …… 調整
動噴故障
弁の固着 …… 清掃・交換
弁の摩耗 …… 交換
ピストンパッキンの摩耗 … 交換
配管部不良
水漏れ
ホース継手のゆるみ …… 増し締め
パッキン消耗、破損 …… 交換
ホース破損 …… 交換（あるいは修理）
詰まり
吸込ストレーナ、ライン
ストレーナの目詰まり …… 清掃
ノズルの詰まり …… 清掃

長期格納整備

格納整備（年間整備）

本年の散布作業が終了して､来年使用されるまでの遊休期間中に本機の分解､清掃､修理整備を行なっておき､来年の散布作業が支障なくできるようにしておきましょう。
格納整備は機材購入店または最寄の地区共立エコー株式会社の営業所にご相談ください。

● 格納整備の実施については使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

・ エンジン
本機からエンジンをおろしてオーバーホールをし、不良個所は修理し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

・ 噴霧用動噴
機体から動噴をおろしてオーバーホールをし、不良個所は整備し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。

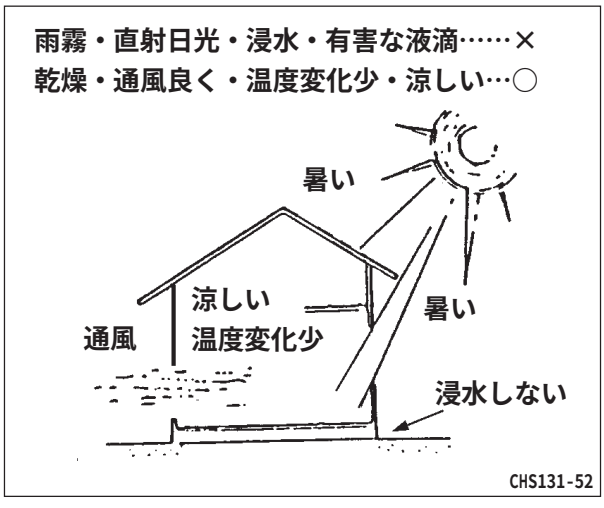
・ 薬液配管
薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。

・ Ｖベルト
Ｖベルトの外傷､へたり､摩耗がないか調べます。

・ 走行部
駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合再塗装します。

● 整備後の長期格納保管には、次の処置を取りましょう。

・ 燃料タンク内の燃料を完全に排出します。
・ 配管内の水を完全に排出します。
・ 薬液タンクのふた、薬液タンクドレン栓は開いておきます。
・ 金属表面の出ている所は油布で軽く表面を拭いておきましょう。
・ 保管は風通しのよい、湿気の少ない場所へ防塵カバーを掛けて格納します。



仕　様

項　目		単 位	ＣＨＳ３５０	ＣＨＳ５５０
寸法（長さ×幅×高さ）		mm	1810 × 690 × 1385	1810 × 870 × 1385
質　量		kg	240	
タンク容量		L	350	500
エンジン	型　式	―	４サイクルガソリン	
	出力（最大／定格）	kW(PS)	4.5/3.4 (6.0/4.5)	
	燃料タンク容量	L	3.8	
走行	前進低速	km/h	Ｌ１＝1.4　Ｌ２＝2.6	
	前進高速	km/h	Ｈ１＝2.1　Ｈ２＝3.8	
	後進低速	km/h	Ｌ１＝1.3　Ｌ２＝2.3	
	後進高速	km/h	Ｈ１＝1.9　Ｈ２＝3.4	
	クローラ外幅	mm	690	
	接地長	mm	748	
	操向方式	―	サイドクラッチ	
	変速方式	―	ギア選択	
	クラッチ型式	―	ベルトテンション	
動噴	型　式	―	ＳＰ４５１　３連ピストンポンプ	
	吸水量	L/min	33	
	回転数	r/min	900	
	圧力（最高）	MPa（kgf/cm²）	3.0（30）	
アタッチメントノズル		―	CNK2　（二本桿 14 頭口） CN1　（一本桿 10 頭口） CN2　（二本桿 10 頭口） CNM12（ムカデノズル 12 頭口）	
送水ホース		―	内径φ 8.5　金具ＰＦ 1/4	

仕様は製品改良のため、予告なしに変更する場合があります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-000 21 0
X753607-040 0